

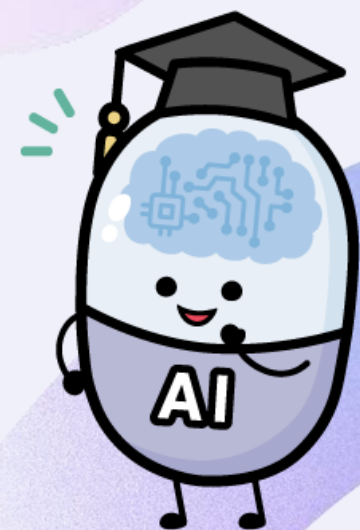
AI連携ライセンス(AL)のご紹介

生成AIベンダーとの契約や管理製品を準備することなく、
すぐに生成AI機能を使える便利なライセンス

目次

1. AI連携ライセンス(AL)のご紹介
 2. お客様の「困った」を解決するALの力
 3. ALで使える生成AI連携機能のご紹介
 4. AI連携ライセンスご利用の流れ
- 付記1 AI連携ライセンス利用上の条件・制約事項
- 付記2 よくある質問

1. AI連携ライセンス(AL)のご紹介



AI連携ライセンスとは

生成AI連携を、もっと身近に WinActor「AI連携ライセンス(AL)」登場！

WinActorはVer.7.5より、生成AIとの連携機能を標準搭載したことで、シナリオ開発や運用が格段に効率化しました。

さらに、従来のRPAでは自動化が難しかった「判断を伴う非定型業務」にも対応できるようになりました。

そして今回、その生成AI連携機能を より手軽に、より柔軟に 活用いただけるよう、新ライセンス「AI連携ライセンス(AL)」をご提供します。

ALを導入することで、生成AIの力を最大限に引き出し、業務効率化・自動化の幅をさらに広げることが可能です。

WinActor × 生成AI = AL

この組み合わせが、業務改革の新たなスタンダードになります。

ぜひこの機会に、ALの導入をご検討ください。

1-1. AI連携ライセンス(AL)の特長

1. 追加費用なしで、すぐに生成AI連携が可能です

- ALに、生成AI(Azure OpenAI)を利用する契約が組み込まれているため、個別の契約は不要で、すぐに生成AI連携機能をご利用いただけます。

2. フローティングライセンス方式で、ライセンスを効率的に使えます

- フローティングライセンス方式のため、端末を固定せず複数の端末で自由に利用できます。いろいろな部署でお試しいただけます。
- ALに、NTT-ATが管理するライセンス管理サーバーの利用が含まれているため、お客さま側でライセンス管理製品を準備する必要はありません。



1-2. WinActorのライセンス種類

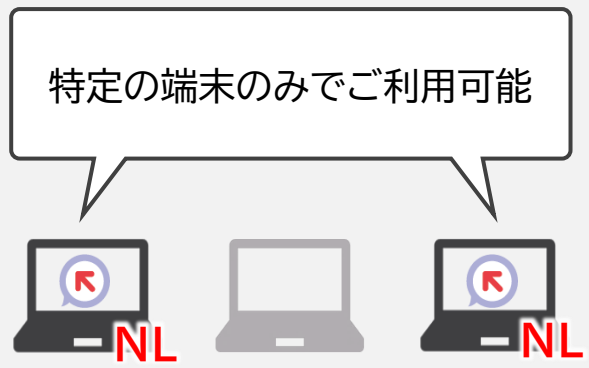


ノードロックライセンス(NL)

PCごとに
インストールして利用
PC1台からスモールスタート

生成AI連携機能の利用には、生成AIベンダーとの別途契約が必要

(例)NLを2ライセンス利用中の場合



フローティング ライセンス(FL)

管理製品と組み合わせて、
どのPCでも利用できる
管理製品が必須

(例)FLを2ライセンス利用中の場合



*利用予定の全ての端末にWinActor(FL)のインストールが必要

AI連携ライセンス(AL)

管理製品なしで、
どのPCでも利用できる
PC1台からスモールスタート

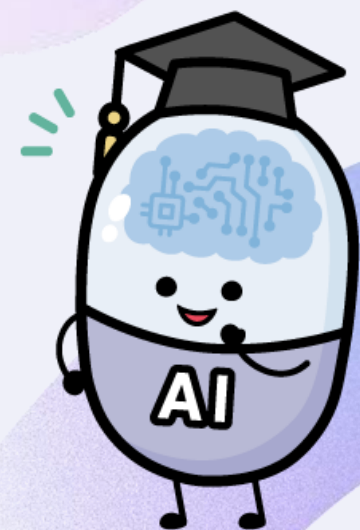
生成AIベンダーとの別途契約が不要

(例)ALを2ライセンス利用中の場合



*利用予定の全ての端末にWinActor(AL)のインストールが必要

2. お客様の「困った」を解決するAIの力



2-1.生成AIの契約不要で、生成AI連携機能を利用可能！

導入前

生成AIベンダーとの契約が必要だ

機密情報を扱う業務でも、安心して生成AIを
使える方法はないだろうか？



導入後

- AI購入だけですぐに生成AI連携機能を使用できた！
- データを生成AIの学習に利用しないため、情報漏洩のリスクなく安心して利用できる

生成AI、契約いらずで即活用



2-2.フローティングライセンス方式！ライセンスをチームで有効利用

導入前

ライセンスを無駄にしたくない。
使いたいときに使える
柔軟なライセンスはないものか…

複数のRPAを導入したいけど、
管理製品の準備が面倒、費用もかかるし…



導入後

- 管理製品いらずのフローティングライセンス方式で、すぐにRPAを導入できた！
- ライセンスをみんなで共有できるから、必要なときに必要な人が使える！
- 少ないライセンス数から始められるので、まずは気軽に試せて安心！

RPA導入のハードルが、
ぐっと下がった！



2-3. 生成AI活用で非定型業務も自動化へ。RPAの可能性を広げる新常識

導入前

シナリオ作成は初めてで不安

※ シナリオ:業務手順を記録したもの

FAX注文書・手書き申請書など、紙資料の
数値を社内システムに自動投入したい



導入後

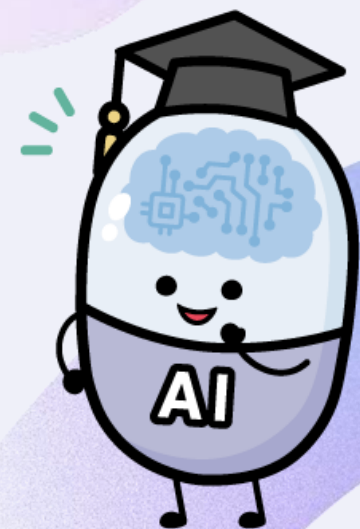
- 生成AIとの対話で、シナリオのひな形が
すぐにできる！（シナリオひな形作成）
- 帳票フォーマットの自動認識でシナリオ
作成が簡単に！（帳票操作の簡単化）
- 画像から直接データ抽出できる！
（シナリオ内生成応答利用<画像認識>）



手軽にシナリオ作成が
できるようになった！



3. ALで使える生成AI連携機能のご紹介



生成AI連携機能のラインナップ（2025年9月時点）

① 対話によるシナリオひな形作成

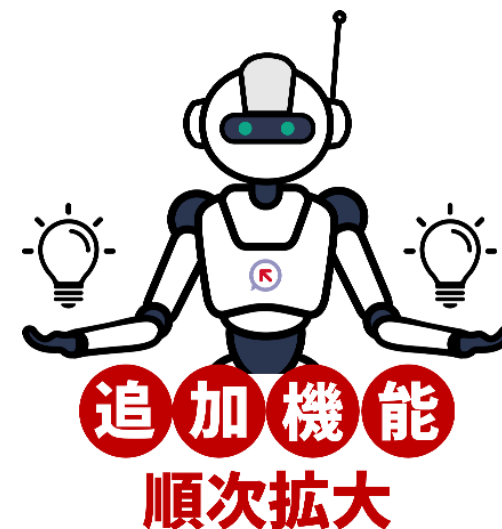
- ・ 生成AIが作成したシナリオのひな形を、対話により修正・追加しブラッシュアップ
- ・ はじめてのシナリオ作成でも簡単に作り上げることが可能

② 帳票操作の簡単化

- ・ 生成AI連携で帳票を読み込ませることで、バラバラのフォーマットの帳票でも、フォーマットを意識することなく、簡単にシナリオ作成
- ・ 帳票内容を自動で認識・整理できるため、スピーディなシナリオ作成が可能

③ シナリオ内生成AI応答利用（テキスト生成、画像認識）

- ・ 問合せ回答案作成や要約、AI翻訳などテキスト生成を対象とした自動化が可能
- ・ 画像認識(画像内データの抽出など)も可能
- ・ これにより非定型業務を含めた自動化を実現

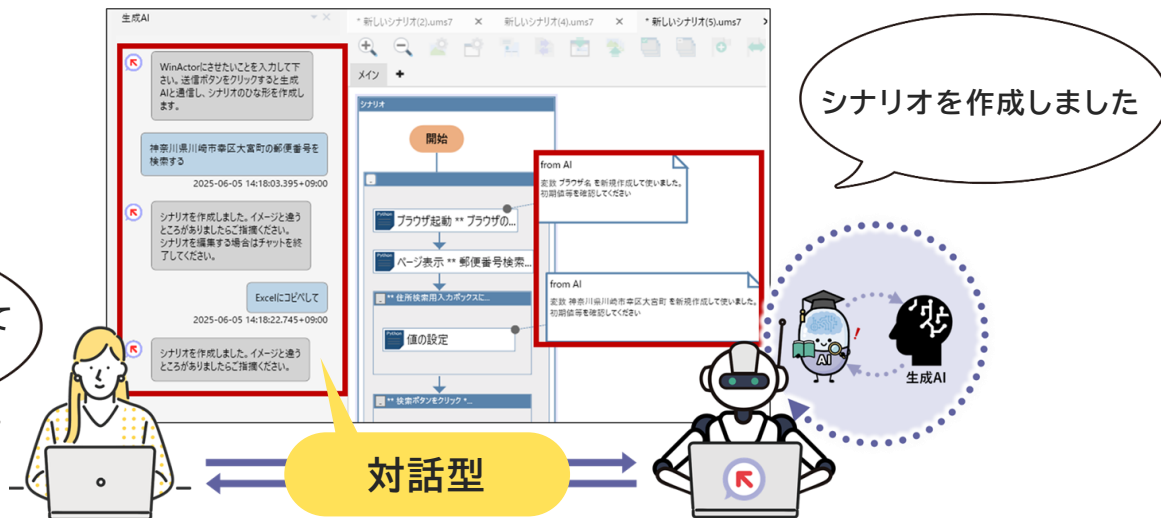


3-1.対話型シナリオひな形作成 / AIと対話しながらシナリオを作成

- チャット形式でシナリオのひな形が作成できる
- ゼロから作る時間を大幅に短縮

●●町の郵便番号を検索して
Excelにコピペして

例:



■ 期待できる効果 シナリオ作成のハードル低下

対話型で指示をするだけでシナリオのひな形ができる

■ 期待できる効果 業務の標準化と属人化解消

誰でも同じ品質でシナリオ作成ができるようになり、
特定の担当者への依存を減らせる

■ 期待できる効果 適切なライブラリ設定の促進

生成AIがシナリオ内容に合わせたライブラリの選択や
設定ヒントを提示してくれるため、最適な設定が容易

■ 期待できる効果 シナリオ作成時間の劇的な短縮

対話型での効率的なシナリオ作成支援により、
開発期間が大幅に短縮される

3-2. 帳票操作の簡単化

- 生成AIが帳票の内容を理解し、変数名とその値、位置情報などを抽出
- バラバラなフォーマットの帳票内の、値や表のフォーマットを意識することなく、簡単にシナリオ作成可能
- 帳票操作の専用ライブラリによって、多数の帳票処理をこれまでより高速処理可能



■ 期待できる効果

作業時間の大幅な短縮

バラバラなフォーマットでも意識することなくデータ化してくれる

■ 期待できる効果

細かく意識しなくても

生成AIが帳票の内容を理解し抽出してくれて、表部分の行数なども意識せずにシナリオ作成が可能になった

■ 期待できる効果

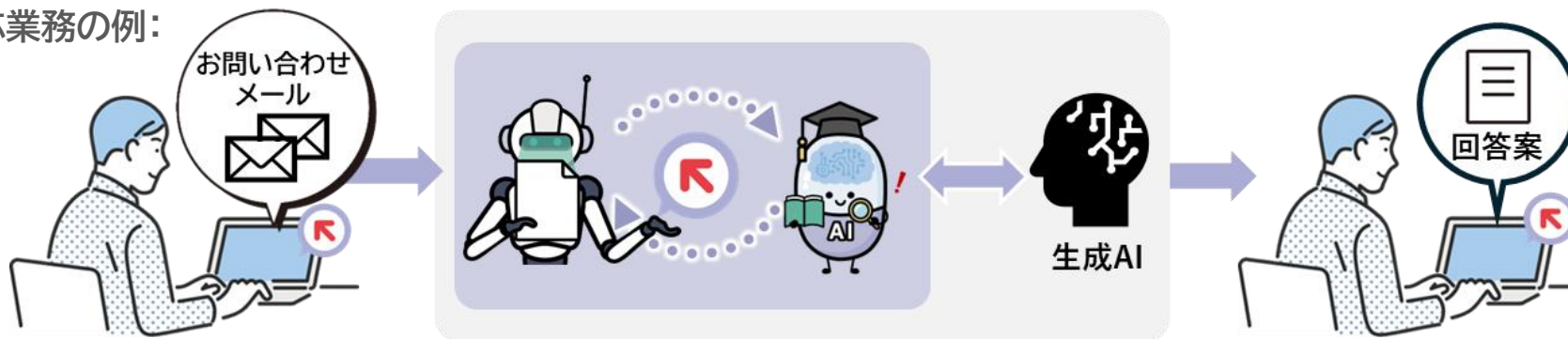
入力ミスの削減、稼働削減

ヒューマンエラーがなくなり、大幅な稼働削減が実現

3-3. シナリオ内生成AI応答利用の例：テキスト生成

シナリオの中で生成AIと直接やりとりを行うことで、問い合わせ対応（メールへの回答作成など）や文書の要約・翻訳が可能

問い合わせ対応業務の例：



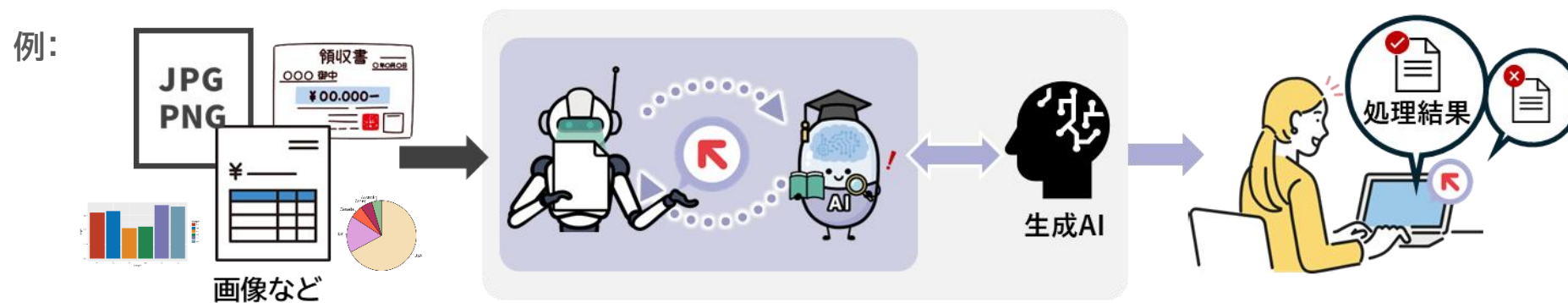
期待できる効果

稼働削減

1件毎にAI応答利用するのは、かなり手間と時間がかかるが、生成AI連携により回答案を確認し、回答送信はWinActorで自動化することで大幅な稼働削減が実現

3-4. シナリオ内生成AI応答利用の例：画像認識

生成AIに指示を与えることで、画像にあるさまざまなデータの理解・抽出が可能
生成AIが抽出したデータのシステム転記やExcel保存など、非定型業務を含めた自動化を実現



期待できる効果

業務の自動化と効率化

FAXや手書きの申請書などから必要な情報を生成AIが自動で認識・抽出し、WinActorと連携してシステムへの入力までを自動化

期待できる効果

稼働削減・ストレスの軽減の向上

手入力による稼働が大幅に削減され、ストレスが軽減
ヒューマンエラーがなくなる

期待できる効果

生産性の向上

非定型業務を自動化
処理時間の短縮

4. AI連携ライセンスご利用の流れ

AI連携ライセンスご利用の流れ

ALのインストーラーはFLのインストーラーを利用いただきます。
AL専用のサーバー接続情報を設定いただくだけで、利用開始できます。

① インストール

FLのインストーラーを利用いただきます。

② WinActorを起動し、
[オプション]-[管理サーバ]&[ライセンスサーバ]に
サーバー接続情報(URL、パスワード)を設定

サーバー接続情報は、ALの「ライセンス証書」に記載されます。

③ [ツール]- [外部サービス連携]-[生成AI連携]で
「シナリオの作成にNTT-ATが契約するAzure
OpenAIを利用する」をチェック

④ 契約開始日以降、AL利用スタート

オプション

記録 編集 時刻 ログ スクリーンセーバー 更新 ブラウザ 生成AI その他

管理サーバ ライセンスサーバ プロキシサーバ サーバ接続状況 ログサーバ 実行

管理サーバからの指示で動作する

管理サーバ1 例: https://192.0.2.0/

URL XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

パスワード ●●●●●●●●●●●●

接続チェック

生成AI連携

シナリオの作成に生成AIを利用しない

シナリオの作成にNTT-ATが契約するAzure OpenAIを利用する

シナリオの作成にお客様が契約するOpenAIを利用する

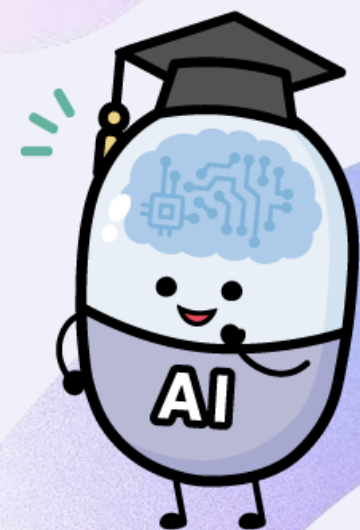
APIキー

Organization ID

Model

シナリオの作成にお客様が契約するAzure OpenAIを利用する

付記1 AI連携ライセンス利用上の条件・制約事項



AI連携ライセンス利用上の条件・制約事項

WinActorソフトウェア使用許諾書、およびWinActor公式サイトに今後記載されるサービス内容、提供条件等をご確認ください。

1. 利用条件等

- AL利用端末から、NTT-ATの管理サーバーへのインターネット接続(HTTPS通信)が必要です。
- WinActorソフトウェア使用許諾契約書に、NTT-ATがマイクロソフトとの契約に基づき提供する生成AIサービスの利用に関する条項が追加されます。ご利用に際しては、本使用許諾契約書への同意が必要となります。
- WinActor公式サイトに、ALの「サービス提供条件」を掲載いたします。

<https://winactor.biz/rpa/winactor-license.html#al-service-condition>

ご利用にあたって必要なお客様社内での手続きは、ご利用社毎に実施ください。

AI連携ライセンス利用上の条件・制約事項

2. 生成AI利用量について

- 2026年10月以降、生成AI利用量の上限が設定されます。
(上限に達した場合は、追加パックのご購入により利用量を増やすことができます。)
- 2026年9月末まで、生成AI利用量の上限はありませんが、リクエスト過集中により一時的に利用不可になることがあります。(時間を空けてリトライいただけます。)

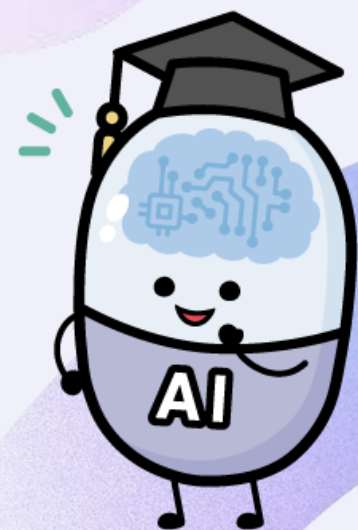
3. 生成AI利用量のカウント方法

生成AI連携機能の「利用回数」を利用量としてカウントします。

「利用回数」とは、WinActorから生成AIに問い合わせる回数です。トークン数ではありません。

また、利用量のカウントは2026年10月に開始します。したがって2026年9月末までの利用量はゼロと計算されます。

付記2 よくある質問



付記:よくある質問

ライセンスの運用について	
質問	回答
ALは、ユーザーが契約している管理機能製品でも管理できますか。	いいえ。ALで動作するWinActorは、お客様の管理機能製品ではご利用できません。
サーバーメンテナンス等、ALが利用できないタイミングはありますか。また、そのようなメンテナンス情報はどこで確認すればいいですか。	はい、メンテナンス等により、ALのご利用に影響が生じるケースが発生する場合があります。 そのようなメンテナンスを実施する場合は、日程が決まりましたら事前にWinActor公式サイトでご案内します。
生成AI利用について	
質問	回答
2026年10月以降に設定される生成AI利用量の「上限値」の内容を教えてください。	生成AI利用量の上限値については、準備が整い次第ご案内します。
ALユーザーは、自身の生成AI利用量をどのように確認できますか。	利用量の上限値が設定される2026年10月以降に、確認可能となります。確認方法の詳細は、準備が整い次第ご案内します。



WinActor®はNTTアドバンステクノロジーの登録商標です

WinActor®が、
仕事を変える。
あなたを変える。
組織を変える。

